

# 私のやさか 美人五人

しゅくびい  
蕭啓

年暮るゝ事迅くして、生命の姪姉なるを歎くとは云へ、ひんがしの空に躍り出づる新らしき年の太陽の溢るゝ生命を誰かは感ぜざる。則ち『女の世界』は新年の太陽に魁けて新年號『美人號』を發行し、讀書界に新らしき生命の舞踏を齎らさんとして居ります。

誠に御忙しいところ恐れ入りますが、該『美女號』の爲めに、左の極めて簡明なる問題に就て、貴答を頂き、誌上一層の春色を彩り度く、謹でお願ひ申上げます。

(問題) 私の好きな美人五人

(日本一人、支那人、西洋二人)

ギリシャの血を受けてゐますから、此處へ入れます）蛇が好きな處は同感出来ませんし、その惡徳も嫌ですが、淀君をすきなのと同じ意味です。殊にその才情を尊敬します。

### 五、

クイン・ヴァキットリア（お寫眞で見たあの顔が何ともたまらなく美人に思はれます、世界一



### 永代みち代

一、

淀君（めつきも口元も唯美しいとだけ、ハツキリ存じませんが、鬼に角美人の中の美人と思ひます。大閻程の者な手玉にとつてさんざなやましたあのブライドが大好き）。

二、

お市の方（淀君の母、信長の妹、淺井長政夫人、ウソか、本當か、淺井の醜男を特に好んで嫁した處が好きです、お市の方は非常なヤキモチヤでしたので、良人の愛を獨專せんが爲めだと云ひます）

あいとくせん  
あひにんひとり  
あいとくせん  
あひにんひとり

三、

生憎すきな女一人もなし。

クレバトラ（東洋かも知れませんが、

描いて質問に御返事を頂いたことを感謝します・蛇は切り後着手しましたのは次號に掲載いたします（編輯者）